



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

第41回人文機構シンポジウム 参加無料／事前申込制／手話通訳あり

戦争をめぐる

生と死

2024年1月28日(日) 12時～17時

会場

コモレ四谷タワーコンファレンス(東京都新宿区四谷1丁目6-1)
及びオンライン配信(Zoombウエビナー)

定員

会場100名・オンライン500名(予定)

趣旨説明

「戦争をめぐる生と死—先史から現代まで」 松木武彦

講演

- 1 「民族学からみた戦争」 野林厚志
- 2 「葬送儀礼に見られる戦争の徴」 山田慎也
- 3 「追悼の“かたち”—近代における黙禱儀礼の発生と変容」 粟津賢太
- 4 「日本アニメが描く第二次世界大戦：生と死の多面的な表現」 アルト・ヨアヒム
- 5 「文明と戦争—生と死のコントローラー」 松本直子

パネル討論

「戦争をめぐる生と死」 松木 × 野林 × 山田 × 粟津 × アルト × 松本

主催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
後援：文部科学省

生と死

「生」と「死」に、生物学的現象以上の意味や価値を付与し、それをめぐる言説や象徴や行為を社会の維持と変革につなげていくことは、人類共通の普遍的な事象であるとともに、個々の集団（民族・国家・共同体）の文化的・社会的多様性をもっとも如実に映し出す。本シンポジウムは、とりわけ「死」の意味や価値、言説や行為がクローズアップされる「戦争」という社会的状況に光を当て、過去や近現代のさまざまな社会において、生と死の姿がどのように言説化され、象徴化され、それをめぐる社会的・文化的行為として表現されるかを明らかにする。そのことを通じて、戦争の文化的・社会的本質と、それに照らした人間の生と死の文化的意味を浮き彫りにしたい。

登壇者紹介



松木 武彦（まつぎ たけひこ）
国立歴史民俗博物館・教授

専攻は考古学。研究テーマは、弥生時代～古墳時代の日本列島史と古備地域史の考古学的調査研究、進化・認知科学を用いた考古学理論の再構築などであるが、ライフワークは戦争と平和の考古学的研究「ホモ・サビエンスはなぜ戦争を行うようになったのか」。2008年「列島創世記 旧石器・縄文・弥生・古墳時代」でサントリー学芸賞を受賞。



野林 厚志（のばやし あつし）
国立民族学博物館・教授

専門は人類学、民族考古学、物質文化論。博士（学術）。主要な研究テーマは台湾原住民のエスニシティと歴史、食の文明論。台湾に関する人文学資料のデジタルアーカイブ構築や国内外の博物館における展示会も手がける。近刊に *Making Food in Local and Global Contexts: Anthropological Perspectives*（編集2022Springer）等。



山田 慎也（やまだ しんや）
国立歴史民俗博物館・副館長・教授

1997年慶應義塾大学社会学研究科博士課程単位取得退学、博士（社会学）、1997年国立民族学博物館 COE 研究員、1998年国立歴史民俗博物館助手、2007年同館准教授、2019年同館教授、2022年副館長となる。専門は民俗学・文化人類学。おもな著作に『現代日本の死と葬儀』（2007、東京大学出版会）、『無縁社会の葬儀と墓』（共編著、2022、吉川弘文館）など。



栗津 賢太（あわづ けんた）
上智大学グリーンケア研究所・客員研究員
人材養成講座講師

1965年神奈川県生まれ。国立歴史民俗博物館 COE 研究員、慶應義塾大学非常勤講師、南山大学南山宗教文化研究所研究員などを経て、現在。専門、宗教社会学・宗教学。博士（社会学）。

著書：『記憶と追悼の宗教社会学—戦没者祭祀の成立と変容』（北海道大学出版会、2017年）、共著『戦争と文化的トラウマ—日本における第二次世界大戦の長期的影響』（日本評論社、2023年）等。



ALT Joachim（アルト・ヨアヒム）
国立歴史民俗博物館・特任助教

ドイツ生まれ、2010年来日。2021年に龍谷大学大学院国際文化研究科において日本アニメにおける第二次世界大戦の表象を研究テーマに論文博士。2022年に国立歴史民俗博物館に着任。横浜国立大学、桜美林大学、早稲田大学などで教歴。2021年に単行論文集（英）『Thinking with Animation』および2023年に単行論文集『戦いとトラウマのアニメ表象』に投稿。



松本 直子（まつもと なおこ）
岡山大学文明動態学研究所・教授

九州大学大学院博士課程修了。1999年より岡山大学に勤務。2021年度から岡山大学文明動態学研究所の所長。縄文社会を主なフィールドとして、認知考古学およびジェンダー考古学の視点から研究を進めている。新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類学」領域代表として、文明形成メカニズムの比較研究に取り組んでいる。主要著書：『認知考古学の理論と実践的研究』九州大学出版会等。

プログラム

- 12:00 ごあいさつ
- 12:05-12:20 **趣旨説明** 松木 武彦
「戦争をめぐる生と死—先史から現代まで」
- 12:20-13:00 **講演1** 野林 厚志
「民族学からみた戦争」
- 13:00-13:40 **講演2** 山田 慎也
「葬送儀礼に見られる戦争の徴」
- 休憩
- 13:50-14:30 **講演3** 栗津 賢太
「追悼の“かたち”—近代における黙祷儀礼の発生と変容」
- 14:30-15:10 **講演4** アルト・ヨアヒム
「日本アニメが描く第二次世界大戦：生と死の多面的な表現」
- 15:10-15:50 **講演5** 松本 直子
「文明と戦争—生と死のコントローラー」
- 休憩
- 16:00-16:55 **パネル討論** 「戦争をめぐる生と死」
参加者：松木・野林・山田・栗津・アルト・松本
- 17:00 閉会

申込方法

詳細・お申込みは以下のWEBサイトをご覧ください。

人文機構HP <https://www.nihu.jp/ja/event/symposium/41>



アクセス

- JR 四ツ谷駅【四ツ谷口】より徒歩1分
東京メトロ 南北線 四ツ谷駅【出口3】より徒歩1分
東京メトロ 丸の内線 四ツ谷駅【出口1】より徒歩3分

